

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

学校番号	34	学校名	中央高等学校	通	通	在籍生徒数	295 名
スクールポリシー (学力に関するもの)	Chuoハーモニックプラン 自らを尊び、社会性を育み、社会的・職業的自立をめざす (基礎・基本の定着を図り、確かな学力の育成に努める)						
グラデュエーション ポリシー	自らを尊び、社会を生き抜く人づくりをします ○学ぶ楽しさ・わかる喜びを知り、自らの生き方や在り方を問い続ける人 ○社会性を身につけ、自立と自律を目指す人 ○自らを尊び、他者を尊び、地域を尊ぶ人						

<b>生徒主体の授業への転換のための取組テーマ</b>	
<input type="checkbox"/>	自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
<input type="checkbox"/>	目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
<input type="checkbox"/>	ICTの利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
<input type="checkbox"/>	文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組

<b>具体的な取組</b>	
<input type="checkbox"/>	一年間を通じた該当科目の履修計画を通信教育実施計画を参照して立てさせる。
<input type="checkbox"/>	実施状況を記録させ、必要に応じ計画変更も検討させる。
<input type="checkbox"/>	未修得にならないタイミングで、的確なアドバイスを与える。
<input type="checkbox"/>	指導はできるだけ登校させて行う。
<input type="checkbox"/>	未修得が予想されるときは指導は寄り添って、丁寧に言い、学習を断念させない工夫を行う。
通信教育の根底 ⇒ 生徒の自主的な学習意欲 ⇒ 計画性・自立性 ⇒ 達成感・自己肯定感 ⇒ 個性の確立	

<b>生徒主体の授業への転換のためのアンケート「高評価数値の推移(%)」</b> (各校の授業アンケートに基づく)	R7中間	R7末
1. 自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	80.0%	83.0%
2. 活用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	76.0%	80.0%
3. 単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	76.0%	79.0%
4. 単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	75.0%	78.0%
5. レポート作成に向けて、ICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	70.0%	73.0%
6. レポート作成の中で、課題解決に向けて自分から取り組んでいる (①強くそう思う, ②そう思う)	82.0%	81.0%
7. レポート作成において、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った(①強くそう思う, ②そう思う)	76.0%	79.0%
8. 学習した内容について、分かった点や、分らなかつた点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	81.0%	80.0%

<b>総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)</b>	
通信制課程の生徒は、他課程の生徒以上に対人関係や社会性に不安を持つものが多い。全日制や定時制のように(充分に)与えられた授業時間を過ごすだけでなく、自ら学習計画を立てて自主的に取り組まなければならない点で一層の「自律」を促す必要があることが課題である。その中でも、各種アンケートの結果は中間評価より年度末評価の方が高まる傾向にあり、年度末まで良く努力を続けた生徒は、自己達成感を得ていることが伺われる。	
学校としての今年度の成果は、推定卒業率(卒業生数を4年前の入学生数で割った値)の向上である。各教科の丁寧な指導はもとより、教職員全員が生徒たちの生活改善や進路希望に寄り添い、主体的かつ持続的にスクーリングの出席やレポート提出に取り組ませることができた。結果として単位の履修・修得率が向上し、標準4年間の課程を3年間で卒業する生徒が増えたことも一因である。	
次年度の取組としては、今年度と同様に生徒に寄り添う指導を継続することである。推定卒業率は、優秀な生徒が卒業できた翌年は必然的に卒業できなかった生徒の割合が増えるため低下する傾向にある。また、授業の満足度は、課題や授業の学習内容を簡易にすれば高くなる傾向がある。したがってアンケート結果の数値に一喜一憂せず、通信制に求められる「学習の質」を落とさぬよう、維持・改善に努めていく。	

<b>各教科の取組</b>		※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。		
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組
国語	社会生活で用いる言葉に関する知識と情報の扱い方を身につけ、言葉を使って認識や思考ができる。	4.2	4.2	知識・能力への課題は、日常生活での基本的な語彙や知識等の定着に個人差が大きいことであり、解決のための取組は定着が図れるようドリルする習慣を促すことである。
	社会生活の中で、他者と言葉を通して互いに考えを伝え合い、論理的に思考することで、共感したり想像することができる。	4.1	4.2	思考・判断・表現力への課題は、自らの考えを発表・表現することを避けがちな生徒が一定数いることであり、解決のための取組は、「話す・書く」ことを必要とする学習機会を増やすことである。
	言葉を用いて考えたり伝えたりすることの必要性を認識するとともに、言語文化に親しみなどして、自らの国語力を向上させようとする事ができる。	4.1	4.2	主体的に学ぶ力への課題は、伝統的言語文化の学習を負担に思う生徒が多いことであり、解決のための取組は、授業の工夫や資料提示、メディア活用などにより、興味関心を持たせ言語文化に親しみやすくすることである。
地公	地理歴史や社会、思想等について、知識を持ち、資料を活用する技能を身につけることができる。	4.0	4.1	知識・能力への課題は基礎的な知識の定着と、資料を読み解き活用する技術を身につけることであり、解決のための取組は授業内における簡潔な解説や多くの資料を提示することである。
	歴史、地理、社会等の問題について、自ら考え思考し表現することができる。	4.0	4.1	思考・判断・表現力への課題は様々な問題の事象について理解し表現する力をつけることであり、解決のための取組は考察する習慣を促すことである。
	社会について興味関心を持ち、主体的に社会参加する意欲を高めることができる。	4.0	4.1	主体的に学ぶ力への課題は自ら社会参加する意欲を高めることであり、解決のための取組は日本のみならず世界で起きている出来事について興味関心を抱くことが出来るような授業作りである。
数学	数や式の性質や規則を知識として理解し、基本的な計算をすることができる。	3.7	3.8	知識・能力への課題は基礎的な知識と計算力を身につけることであり、解決のための取組は常に丁寧な解説を心がけることである。
	公式やグラフ等の意味を理解し、思考・判断しながら問題の解法に活用することができる。	3.7	3.9	思考・判断・表現力への課題は問題解決の過程について理解することであり、解決のための取組は、できる限り自ら考える時間を設けるよう心がけることである。
	身につけた知識を活用して、主体的に応用問題の解答を導くことができる。	3.8	3.9	主体的に学ぶ力への課題は自ら学習しようとする姿勢であり、解決のための取組はわかりやすい教科書の解説をレポートに盛り込むことである。
理科	自然の事物・現象に対する知識を持ち、ICT機器などさまざまな資料を活用できる。	3.9	3.9	知識・能力への課題は基礎的な知識の定着不足であり、解決のための取組は丁寧な解説とスモールステップでの反復演習である。
	実験・観察を立案し、自らの考えを表現でき、自然の事物・現象を科学的に探究できる。	3.9	4.0	思考・判断・表現力への課題は、科学的思考力の醸成であり、解決のための取組は、実験・観察活動を通じて、思考力・表現力をつけさせることである。
	主体的に自然の事物・現象に関心を持ち続け、日常生活でそれらから得た知識を進んで活用しようとする事ができる。	4.0	4.0	主体的に学ぶ力への課題は科学的な探究心の育成であり、解決のための取組は課題報告を通じ、日常生活の中に科学を発見させることである。
英語	より多くの語彙・表現・文法等の知識技能の定着をさせようとする事ができる。	4.0	4.2	知識・能力への課題は基礎的な知識の定着不足であり、解決のための取組は、より解り易いよう工夫した解説と丁寧な反復演習である。
	目的・場面・状況に応じて、英文を的確に読み取ったり、読んだり聞いたりして得られた情報に基づき自分の考えや気持ちを表現することができる。	3.9	4.1	思考・判断・表現力への課題は様々な種類の英文の読み方・書き方の習得であり、解決のための取組は考える時間が必要な設問を増やすことである。
	主体的に自分の考えを深め、英語で記述したり発表することができる。	3.7	4.0	主体的に学ぶ力への課題は積極的に自らの考えを発信することであり、解決のための取組はペーパーワークを行う機会を増やすことである。
芸術	芸術に関するより深い知識を得るとともに、鑑賞したり製作したりする技能を培うことができる。	4.2	4.2	知識・能力への課題は引き続き芸術に関する技能を身につけることであり、解決のための取組はより多彩な作品の鑑賞・製作である。
	芸術について思考し、作品やその他によって表現したり発表したりすることができる。	4.0	4.1	思考・判断・表現力への課題は自信をもって作品発表することであり、解決のための取組は日頃から生徒間の交流機会を増やすことである。
	芸術への興味関心を持ち続け、生涯を通じて芸術的活動を行う意欲を高めることができる。	4.2	4.3	主体的に学ぶ力への課題は自ら好きな作者を探し出すことであり、解決のための取組はより多様な作品に触れ興味を持たせることである。
家庭	生活や産業について基礎的な知識を得て、関連する技術を身につけることができる。	4.0	4.0	知識・能力への課題は基礎的な知識と技術を習得することであり、解決のための取組は繰り返し学習や実習を行わせることである。
	生活や産業の課題について、自ら考えて判断し解決する力を培うことができる。	4.1	4.1	思考・判断・表現力への課題は考えたことを具体的に文章にすることであり、解決のための取組は学習内容を自身の生活に照らし考えさせることである。
	生活の質の向上を図り、主体的・協働的に家庭や地域社会とかかわる基礎を養うことができる。	4.1	4.2	主体的に学ぶ力への課題は学習内容を自身の生活に反映させようとする姿勢であり、解決のための取組は課題解決型の学習内容を充実させることである。
保体	各種目の基礎的、基本的な知識・技能を身につけることができる。	4.6	4.4	知識・能力への課題は生涯スポーツを考えた競技の基礎の修得であり、解決のための取組は一緒に活動し基礎を修得させることである。
	球技で自己に適した「する、みる、支える、知る」など、生涯にわたって楽しむためのかわり方ができる。	4.5	4.5	思考・判断・表現力への課題は運動やスポーツに興味を持つことであり、解決のための取組はレポートを通して何が出来るかを考えさせ実践させることである。
	球技の学習に主体的に取り組み、健康・安全を確保して積極的に活動することができる。	4.5	4.5	主体的に学ぶ力への課題は自分の体調や安全を確保して活動することであり、解決のための取組は健康観察や場の設定をして楽しく活動させることである。
情報	情報処理の知識を身に付け、プログラミング等の技能を身に付ける。	3.9	4.0	知識・能力への課題は情報と情報技術に関する基礎知識の修得であり、解決のための取組は授業内で事例や資料を提示し丁寧な解説を心がけることである。
	情報機器を活用し、プログラミングの発想で思考・判断し表現できる。	4.0	4.0	思考・判断・表現力への課題は目的や状況に応じて情報や情報技術を的確に活用できる方法を身につけることであり、解決のための取組は様々な手段を実践を通して活用できる力を養わせることである。
	情報社会でリテラシーを身に付け、主体的に生きていくための意欲を高めることができる。	4.1	4.0	主体的に学ぶ力への課題は情報社会に主体的に参加することであり、解決のための取組は情報技術を適切に活用する力を付けさせることである。
商業	ビジネスや商業に関する基礎的な知識や計算に関する技術を身につけることができる。	4.3	4.6	知識・能力への課題は仕訳や計算の正確性であり、解決のための取組は原理やしくみを理解した上で反復練習を行うことである。
	ビジネスや商業において主体的に思考し課題を発見して、解決のための判断をすることができる。	4.1	4.7	思考・判断・表現力への課題は状況に応じた判断力が弱いことであり、解決のための取組は複数の企業事例を用いた多様な演習である。
	職業人としての人間性を育み、他者と協働し話し合いながらビジネスに創造的に関わりようとする基礎的な力を身につけようとしている。	4.2	4.7	主体的に学ぶ力への課題は自身の将来と結びつける姿勢の欠如であり、解決のための取組は身近な企業について調査発表する活動を行うことである。
総探	課題解決において必要な知識や技術を身につけている。		4.3	知識・能力への課題は、各生徒の諸問題への認識力の差であり、解決のための取組は、より理解しやす資料づくりへの工夫である。
	社会一般の情報を正しく整理分析し、思考・判断のもとに表現している。		4.4	思考・判断・表現力への課題は、各テーマを今の自分に必要な問題として強く意識させることであり、解決のための取組は言語活動である。
	主体的に問題解決方法を見つけ、自己表現を目指している。		4.3	主体的に学ぶ力への課題は、より多くの情報を持続的・発展的に入手させることであり、解決のための取組は情報編集力の向上である。